

平成 26 年 4 月 3 日

ホンドテンモニタリングチーム企画活動計画書

提案者 青木邦夫

○チーム企画活動の名称

ホンドテンモニタリング調査

○共同企画者

◎鈴木誠樹 ○青木邦夫 ○小濱義也 金井和喜男 坂西成人 田米開隆男
長浜陽介 平井希一 星野莉紗
足立高行 [顧問]

○活動の目的と内容

1. ホンドテンの糞を採集し、採餌動・植物の動向をモニタリング。これらの蓄積により、ホンドテンから見た赤谷の森を多くの人に伝える。
2. センサーカメラによりホンドテンの行動を調査。上記調査の補完的な調査で、糞が集中する場所や中心的な採餌植物の生育地などを中心に実施。
3. 調査場所は赤谷プロジェクト対象地内とするが、ムタコ沢林道周辺、小出俣林道周辺、旧三国街道沿線を中心に定期的な調査区域とする。各調査地域とも調査は 1 回/月とする。(ただし、天候などでサンプリングが上手くいかなかった場合には再調査を行う可能性がある)

○活動期間

2014 年 4 月～2016 年 3 月

赤谷プロジェクトに対する理解や生物多様性保全・復元への意識の醸成、野生のほ乳類の未知の暮らしの解明に必要なデータの蓄積を目的とすることから、可能な限り長期にわたって実施したい。

○期待する成果

1. 野生のほ乳類動物を対象とした未知の事柄への訴求といった取組を継続することで、その取組を通じて、あるいはその取り組み自体が、赤谷の森や赤谷プロジェクトに興味を持っていただく入り口となる（森の恵みの取り出しの一つの手段）
2. これまでの成果及びホンドテンの暮らしの息づかいがリアルに感じられる毎年の解析結果を環境教育教材等として活用できるとともに、赤谷プロジェクトの取組の情報発信ツールとして活用できる。
3. これまでの赤谷におけるテン・モニの調査結果から、保全生態学的なことも含めて評価すると、『テンは森林を指標する動物』という位置づけは、たとえばツキノワグマとは違うわけで、日本的な多様な環境（森林、林縁、溪谷などを含む環境）を季節によって使い分けていると捉えたほうが、より実像に近いのではないかと考えられる。また、赤谷地域における各環境要素がテンにどのような影響を与えているかは判っていない。ゼネラリストであるテンを調査することによって、赤谷地域の自然環境の状況をテンの採餌生態から総合的に理解する。具体的には赤谷の調査サイトの多様な環境をテンがどのように（環境的、季節的）利用しているのかを探る。→継続的に調査された他地点との比較から、赤谷地域の特性をクローズアップすることができる。

以上